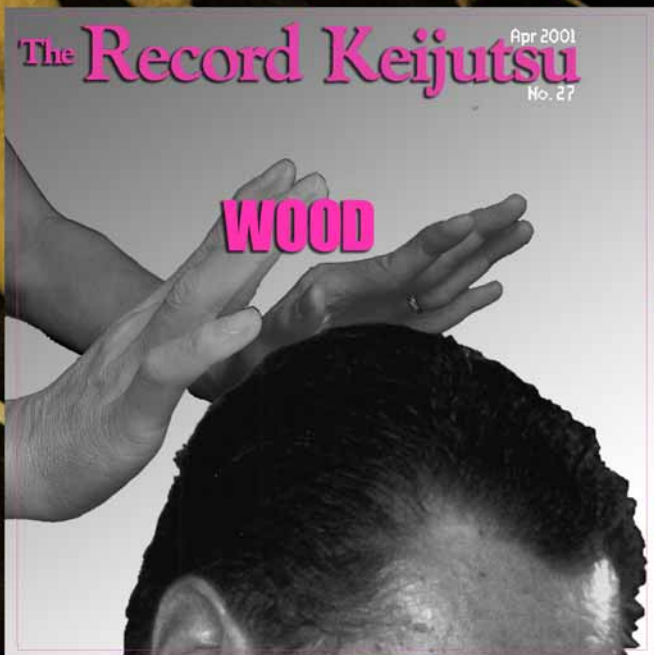


レコード 軽術4.1



【今月のアーティスト】 ヌスット・ワルド

【連載】 でいすく◎古田秀和



オペラくじ発行!

それぞれの歌手の
出るステージを当
てたら最高一億円



収益は音楽文化の
育成に回されます

一部のオペラには青少年に不適切な内容があります。十九歳未満は買えません。

Tokyo Opera City Organization

東京オペラシティ協会主催・文部科学省後援

オーディオ文化の再興を … 音にこだわる技術者を育てる
おとつくり大学 2001 年 4 月 1 日開校



これまで私たちは巨匠カラヤンの豊富な音源を活用し、CD販売で多大な利益を得てきました。皆様に感謝します。今年からは資金を社会に還元しようと心を改め、おとつくり大学を設立しました。

同じ敷地内の「かねつくり大学」は多くの人材を世に送り出し、その使命を終えたと判断、この3/31をもって閉校しました。

Karajan Symphony Discs

(財) カラヤン・シンフォニー・ディスクス

Artist of the Month

ワルド館長
「マダム・バタフライ」
を語る

アメリカ有数のオペラハウスであるグリーン・ビル歌劇場の引越し公演が愛媛県宇和島市で行われている。なかでも「マダム・バタフライ」の演出のあり方について各界で波紋が広がっている。

音楽監督で館長も兼ねるヌスト・ワルド氏が公演で忙しい中、本誌のインタビューに応じてくださった。



前回来日公演時のステージから

■まずお詫びしなければいけないのは、我が国の招聘元の責任者が公演初日にゴルフに行っていて連絡が不十分だったりして済みません。

ワルド はつきり言つて、我々を呼んでおいてなんだと、やる気にも影響したが、それは初日だけだ。これからを見て欲しい。

■今回は合唱団も引き連れての公演とあつて、ご苦労も多いと思いますが、いかがですか。

ワルド 我々は世界中を回る用意はいつも出来てなくてはいけない。この程度ならたいしたことはない。

■合唱団の一部メンバーは公募と聞いていますか。

ワルド 一般のオペラ好きの音楽ファンが参加している。スポンサーの意向で抽選で選ばれた人たちだ。ただし、参加枠が決まっているので彼らがいるために音楽の質が落ちることは決してない。スポンサーの援助で我々の運営も成り立って

る。このような音楽ファンのための体験ツアーもしてはいけないのだ。私は館長として結果の全責任を持つている。

■館長は以前はテノール歌手で、「マダム・バタフライ」のピンカートンをよく歌われたとか。

ワルド おお、それを知っていたか、うれしいことだ。もう一つ付け加えると、私は日本生まれなのだよ。三沢の米軍基地で生まれたのだ。だから「マダム・バタフライ」は私にとつて特別な意味がある。

■ヒロインの蝶々さんですが、アメリカ軍人の身勝手な行いに翻弄された哀れな日本女性ですよね。アメリカの領事シャープレスはピンカートンの行いには問題ありだと内心思つてゐる。それをいわずにズルズルとやってきて、最後に蝶々さんは悲嘆の余り自殺する。ピンカートンは反省はするけれど、蝶々さんの前で謝らない。日米関係を考えればシャープレスだつて責任はありはせぬかと



と思いますが、どうなんでしょうか。

ワルド 軍人というものはそんなものさ。いいかね、ひとたび戦争になれば彼らは戦場にかり出され、何人も人を殺す。それが仕事だから、何千人殺したところで殺人罪にならない。誤って味方を殺しても無罪だ。全く異常な世界だ。そのことを考えたら、赴任先での現地妻を自殺に追い込んだなど、とるに足らぬ事件なのだよ。私は米軍基地で生まれたけれど、軍人にならなかった理由はそれなのだ。戦争にかかわるのはごめんだ。音楽をやっていてよかったと思う。



元テノール歌手の館長は、いささか強引な印象も感じなくもなかったが、根は誠意ある熱血漢だった。組織の中で身動きできぬ立場もあることだろうが、誠意ある生き方は変えずにこれからも活躍されることを望みたい。



今月のテーマ

オーケストラの自発性について

カルロス・クライバーのリハーサル風景のビデオを見た。クライバーが四〇歳の時のものだ。オーケストラは南ドイツ放送交響楽団。華麗な指揮ぶりの裏でどのような準備

「聴きながら弾いているときは相手を一瞬待つような探りがある」
 伴奏にすぎないような単純な音型も指揮棒に合わせ、弾けばよいというものではない。各パートが全体の流れの中でどのような役割を持っているのかを音楽を感じながら——この、感じながら、というのが大切なのだけれど——捉えることの大切さをクライバーはオーケストラに訴えているのだ。指揮者はよい耳を持っていて、なおかつどのような音楽を創りあげたいのか、的確に説明し、方法を示さなければならぬ。オーケストラと指揮者の関係がうまくいっていれば、指揮者はこんなことをやりたいのだろう」ということ



[でいすく]
DISC Hidekazu Furuta

a small optical disc on which music, data, or images are digitally recorded for playback.

古田秀和



がなされているのか、興味があつた。
 「魔弾の射手」序曲の中で管楽器がソロでメロディを奏で、弦が伴奏に回る場面がある。ここで彼は次のようなことを言う。

「ソロを聴いて弾いていないのは私の耳にはわかります」

がつかめるようになってきて、指揮者は細かいことをあれこれいわずとも意図した音が出てくるようになる。そこまでいけば指揮者はむしろ脇役、オーケストラに身をまかせ流れに乗って行けばよい。

「皆が盛り上がって先に行きたいのなら、無理に抑えたりしません」

ヴィデオの中でクライバーが言っていた。本番の映像で見ると、華麗な指揮ぶりの裏にこのような人間くさいやりとりの積み重ねがあることを知り、私はひどく感動した。

よく「オーケストラの自発性を尊重した指揮」という表現があるけれど、クライバーはまさしくそのような指揮をしているようだ。

CDで聴くいろいろな演奏の中に、パートによってメロディの歌い方が異なっていたり、テンポに安定感が感じられないようなものもある。要するに不揃いな、いい方を代えればアンサンブルの精度が低い演奏なのだが、これを指揮者に拘束されていないという意味で「自発性が尊重されている」——これは評論家が勝手に創りあげた用語のようにも思われるのだが——というのかもしれない。私は指揮法の現場的なことはよく知らないが、クライバーの場合は精緻なアンサンブルがオーケストラの自発性によって成し遂げられて

いるといったらよいだろうか。

では、「自発性のない演奏」とはどのようなものを用いるだろうか？その疑問が晴れないまま二三日CDやLPを聴いているうちに、忘れかけていた演奏に出会った。アーバンターケシという人が振っているブルックナーの交響曲第四番である。ブルックナーの第一人者として一部では知られていた人だ。ただし、かなり以前のことで、その評価はどの程度のものであったか私は知らない。

私を知っているのは、彼の使っていたスコアに問題があるのにかかわらず、押し通していたこと。音楽学者からの非難が高まると、あっさり主張を引つ込め、「当時の資料では誤りを予見できなかった」と言い残して指揮活動から去っていったことだけだ。

唯一残されたこのLPからは、和声的にも、管弦楽法からも、おかしな響きがするところがいくつも聴かれる。にもかかわらず、指揮者に逆らえず「生活のために」必死に合わせようとするオーケストラ。冷たい、空虚なブルックナー。ここに「オーケストラの自発性」はあるのだろうか。すっかり忘れ去られてしまったが、当時は権威者とされた一人の指揮者のもとで働いていた人々たちのことを考えた。

新譜月評

apr 2001

4.1

4月新譜月評

管弦楽曲 藤田由々

ヨハン・シュトラウス
《ウィーンの森の物語》, 他
ウロッショ・ウッド指揮

協奏曲 歌咲風邪彦

器楽曲 武田迷倫

ドヴォルザーク
チェロ協奏曲作品 104
《森の静けさ》作品 68-5
森野中亀指揮 小泉変一朗 (vc)

録音評 神崎自公

シューマン
《森の情景》他
缶直人 (p)

(評外)
《望郷のカンパネラ》
志下信 房子 (p)

新譜月評

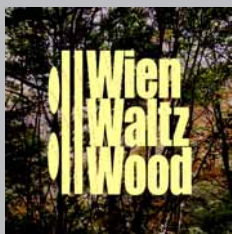
管弦楽曲

藤田由々

■ヨハン・シュトラウス…《ウィーンの森の物語》

他 ウロッシヨ・ウッド指揮ウィー

ン・ファイル



推薦

ウィーナ・ワルツといえば、ニューイヤール・コンサートで行われるように、大指揮者と呼ばれる指揮者によつて演奏されるものだけが本格派と思つてはいけない。もともとウィーナ・ワルツ自体は非常に

ローカルな音楽である。「ウィーンなまり」と呼ばれる独特のリズムがあり、これが自然に弾けることがウィーンで育つた音楽家の誇りともなっている。

このCDに登場した指揮者ウロッシヨ・ウッドは生粋のウィーン子。大きな図体をフルに使つて楽しさあふれる音楽を生み出している。

第一曲「ウィーンの森の物語」からこの指揮者の並々ならぬ資質が明らかにになる。臨機応変に変化するテンポは酒席の軽口の

たたき合いを思わせる躍動感。この指揮者にパーティで会ったらさぞ楽しいことだろう。続く「親しい仲」もよいが、「酒・女・歌」の輝きは素晴らしい。

今後のウィーン・フィルにとって重要な指揮者として大曲も指揮することを期待したいが、当のご本人は行つて謙虚、あまり出たがらない意向である。

何でも、自分に向いているのは人を楽しませること、要するにエンターテイナーに徹すること。伝統ある奥深い音楽をやる資質に自分は欠けているのだという。

【録音評】 レコード会社の系列によるしがらみを嫌った市民組織「ウッドを支える会」が協力している。会員の中にはウィーン・フィルのメンバーと結婚している日本女性も多い。カンパによって楽友協会の大ホールを借り切り、手作りの機材を使って録音された。名ホールの響きが美しい。大会社による売り上げ一辺倒の路線が崩れつつある。

おだてられて引つ張り出されても大曲を十分にこなせる自信はない。失敗してウィーンの伝統を汚すことはしたくないのだそう。政治家に例えれば首相になつて難しいことに忙しく取り組んだところで何が面白い。田舎の村長なら難しいことはお上まかせ、ゴルフをやる暇だつてある。そんな生活が一番好きだとのこと。

俺が俺がと他人をけ落として頂点ばかりねらう凡人ばかりで成り立っているどこかの国とは文化の懐の深さが違ふと改めて思った。

新譜月評

協奏曲

歌咲風邪彦

■ドヴォルザーク…チェロ協奏曲作品一〇四

(Vc) 森野中亀指揮 永田町管弦楽団

《森の静けさ》作品六八・五 小泉変一朗



永田町交響楽団の定期演奏会のライブ録音である。この演奏会を最後に森野中亀は常任指揮者を辞任する運びである。ただし、時期は不明である。

これまで我々はこの指揮者でよくぞ我慢してきたと思う。最近の調査では、定期会

員でさえ支持すると答える割合は一割そこそこになっていると聞く。彼には指揮者の資質がないといわれているが、もつと平たくいえば頭が悪くて指揮者になれないはずの人だったのだ。これまでコンサートマスターはじめ首席奏者が支えてきたが、やつと限界がきたようだ。

このディスクでソロを弾くのは主席チェロ奏者の小泉。度重なる指揮者の振り間違いや暴走を必死にカバーしてきた人だ。ソロでは個性ある音楽を聴かせることで人気

があるのに、オケでは指揮者擁護に痛々しいばかりだった。

このディスクは小泉のソロ奏者としての事実上のデビュー宣言ともいえよう。これまで仕えてきた指揮者に対する花道とるか、宣戦布告ととるか。興味ある顔合わせでもある。

結果は見事肩すかしといった感じである。支える自分を欠いたオーケストラを相手に指揮者はひたすら安全運転。何とも盛り上がらない結果になった。

ソロ・デビューの小泉も氣勢をそがれたか、表現意欲に欠ける。オケの低調さに気

勢をそがれたのか、指揮者に何か遠慮があるのかわからないが、彼らしくない演奏である。これまでの彼の演奏によく見られたともすれば過激な表現を期待した人はひどくがっかりするだろう

強いて評価するとすれば余白の「森の静けさ」がよい。オケの控えめさがソロを浮き立たせる。オケのピアノシモには哀愁さえただろう。森野中亀には意識してそのような演奏をする能力があるとは思えないが、結果として彼の花道にふさわしい好演となった。

【録音評】

オケとソロのバランスが悪い。協奏曲ではソロはオケに埋もれそう。「森の静けさ」では逆にソロがクローズ・アップされすぎ。ミキシングのときの意見の統一が得られず苦肉の折衷策となったのではあるまいか。オケは概して右より。会場のノイズが多い。

新譜月評

器楽曲

武田迷倫

■シューマン…《森の情景》 ■ドヴォルザーク…《ボヘミアの森から》 他 缶直人 (p)
鷹山由起夫 (p)



「未来ある地球資源・森林を守ろう」と題して複数の環境保護団体が共催したチャリティ・コンサートの子イヴ録音。演奏会前半は、環境保護派のベテラン・ピアニストである缶直人によるソロ。後半は缶の盟友であり、やはりベテランの鷹山由起夫を迎

えての連弾演奏である。

前半のプログラムは、缶によるシューマンの「森の情景」とシャミナードの「森の精」。評者はこれほど攻撃的な「森の情景」を聴いたことがない。シャミナードに至っても同様だ。シューマンの持つ陰鬱美も、シャミナードの透明感も、どこかへ吹き飛ばされている。ひとつひとつの音と旋律は非常に硬質で明確、それでいて異様な熱気と攻撃性に満ちている。

まるで「親の仇」にでも向かうかのよう

に作品に接している。しかし演奏トータルで見ると、いったい缶は何を表現したのかがよく分からない。要は演奏そのものに説得力がないのだ。

後半の鷹山との連弾もまったく同じ。「攻撃的」という面では、缶も鷹山も方向性は一致。鷹山も「森」に何らかの因縁がありそうだ。しかし、表現のそこで解釈に不整合が見られる。ことにテンポを揺らすところでは、両者の解釈がまったくかみ合っていない。連弾でありながら、自分ばかりが目立とうとする姿勢がありありだ。それでもドヴォルザークの「ボヘミアの森」

は、両者のせめぎ合いという観点で、まだ面白く聴ける。だが、シュトラウスの「ウィーンの森の物語」となると、もういただけない。セコンダで伴奏に回った鷹山が欲求不満を鍵盤上で爆発させ、プリモの缶がヒステリックに応答する。これでは連弾の体をなしていない。結果、ソロと同様に奏者の主張が聴衆に伝わり切れない演奏と相成った。

そもそも、演奏会自体が本当に森を守るために企画されたのか疑わしい。攻撃性だけが目立つ音楽に共感を持って聴き通すものがどれほどいるか疑問だ。

【録音評】

東京芸術劇場大ホールにおけるライヴ録音。ライヴでありながら会場ノイズも少なく、音像は非常に明瞭。時折、演奏者の発する「気合い」まで捉えられている。

政変はゴルフ場から

緊急事態が起ころうと、ここはプライベート空間

携帯電話の電波が届かない地下ではオペラが楽しめます

4月1日は会員権無料貸与！

有力者が集う戸塚カントリーホールへ



- | | |
|----------------|---------------|
| 1. 中劇場客席 | 7. 茶番劇場・主舞台 |
| 2. 中劇場舞台 | 8. オーケストラ・ピット |
| 3. 根回し室 | 9. 茶番劇場・客席 |
| 4. 密談所 | 10. 茶番劇場・楽屋 |
| 5. 茶番劇場・裏舞台 | 11. ホワイエ |
| 6. 茶番劇場・奈落・拷問室 | 12. テラスガーデン |

取り戻そう「宝の海」を

有明海水産業関係者支援チャリティCD発売



カードの台紙には作柄不良で食用に出来なかったノリを使用

諫早陸奥五郎指揮

長崎・熊本合同フィルハーモニー・湾岸合唱団

跡健康調査 追五年後を見る

五年前、ある音楽雑誌で「自分の葬式にかけて欲しい曲」というアンケート調査があった。予想されたとおり、レクイエムあるいは葬送行進曲と呼ばれているものが最も多く、次にいわゆる最近話題の癒し系と呼ばれる緩やかなテンポのものが残りのほとんどを占めた。たとえばモーツアルトのクラリネット五重奏曲、ディーリアスの夏の歌、マーラーの交響曲の緩徐楽章などである。

癒し系の音楽も、葬式という目的で見れば二通りある。一つは純粹な癒しの音楽。モーツアルトのフルートとハープのための協奏曲を選んだ人がいたが、この第二楽章などは清澄そのもの。生前仲が悪かった人が葬式に訪れたとすれば、みるみる故人に済まなかったという心境になるに違いない。

もう一つはいわゆる作曲者の辞世の曲。便宜上、死ぬ前二年内に書かれたものとする。

作曲家	健康	寝たきり	死亡
バッハ	99.2	0.8	0
モーツアルト	98.5	1.3	0.2
ハイドン	99.9	0.1	0
マーラー	98.9	1.0	0.1

表2：作曲家と健康状態の関係(%)

分類	健康	寝たきり	死亡
レクイエム	91.0	7.3	1.7
癒し	96.5	3.2	0.3
絶筆	84.4	2.2	13.4

表1：選曲と健康状態の関係(%)

最晩年の悟り切った心境にあふれているものが多い。ベートーヴェンの最後の弦楽四重奏曲とか、ブラームスの四つの厳肅な歌などがその分類に含まれる。癒し系と区別する意味で絶筆系と呼ぶことにする。

本誌では、五年前にアンケートに答えた人をレクイエム系、癒し系、絶筆系に分類し、その後の健康状態をまとめてみた。サンプル数は九二六人。モーツアルトのレクイエムはレクイエム系でかつ絶筆であるが、レクイエム系に入れた。

結果は表1のように、絶筆系を選んだ人の死亡率がきわめて高い。わずかに絶筆系の平均年齢が高いが、そのせいではないことは明白だ。死を予期しているゆえ、この種の音楽に惹かれるとしたら不気味でもある。

もっとも長生きをしそうなグループが癒し系の音楽を選んだ人たちである。作曲家と生存率の関係について調べてみたのが表2である。サンプル数が少ないので確かなことはいえないが、長生きをした作曲家を選んだ人の方が良好だ。最高齢はハイドンの弦楽四重奏曲を選んだ九六歳の男性だった。

高級管球式アンプの老舗M社のにせ真空管事件は意外な展開を見せている。ことの起こりは、名球の誉れ高い300Bが同じ特性を持つトランジスタに置き換えられていた



ことにあった。ガラス管に入っていて、ヒータも点灯するが、動作しているのは電氣的に等価に作られたトランジスタ（正確にはFET）だった。



外見では区別できない

にせ真空管事件その後

たのである。この背景には、真空管の製造技術がもはや保てなくなってきたことがある。営業的にも、測定器で判断する限り同じ動作をするものが遙かに安価に製造できる点で大きなメリットがある。

当惑したのはこれを知らずして買ったオーディオ・マニアたちであ

る。真空管の味を楽しんでいたつもりがそれを裏切られたのだから、メーカーには抗議が殺到した。

しかし、メーカー側は商品に真空管を使っているという明確な表示はもととしていないこと、さらに問題の「真空管」を使った製品は好評であったことからユーザの不利益になることはいつさいないと反論。

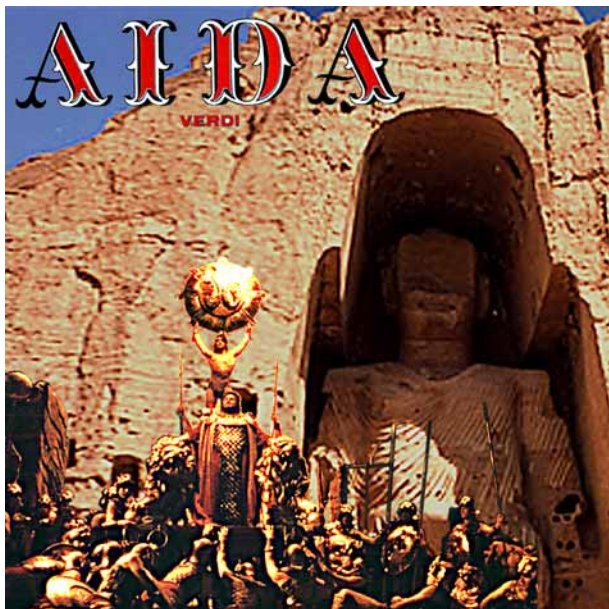
一方、マニア側はだまされたことは明らかであると、思いこみを踏みにじられたことに対する慰謝料を請求した。

法律がマニアたちに納得できる結果を出せるのか、注目していきたい。

バーミヤンの石仏は健在！

一昨年に上半身を緊急避難。破壊されたと伝えられたのはコンクリートで作ったダミーです。

オペラ「アイーダ」の舞台でその姿を公開！



文化財の保護に宗教も国境もありません。

DVD収録予定

ヴェルディ没後100年記念公演

カラス座

これからは環境に優しいCD - E

原材料に米やトウモロコシなど、穀物を使用。



(よい子はまねをしてはいけません)

捨てても無害で土にもどり、環境を汚染しません。

Eには食べられる (eatable) の意味もあります。



使用上の注意

プレーヤに時々かけてレーザ光を当てないと、左のようにCDが変質します。たまにしか聴きそうもないようなCDは買うのはやめましょう。

不要なCDが付録に付いている雑誌は買わないようにしましょう。

CDリサイクルはオントモ燃処理(株)へどうぞ

CD引換券

不要なCD 5枚と本券でおいしい煎餅1枚と交換します

オントモグループ **オントモ燃処理**株式会社

有効期限 2001.4.1

もう一杯、名曲もアンコール

「しこ軽」発祥の地「グレル」

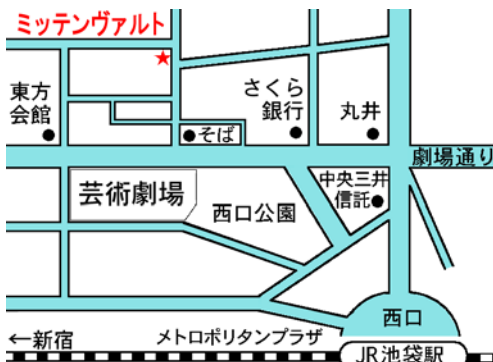


TEL 167-0054
杉並区松庵3-37-24
(日曜休み)

今月のメニュー

エリック・サKEYおつまみ集
から

食欲をそそらないコーラ
大きな頭の客に焼き餅



<http://www.jah.ne.jp/~violin>

器用貧乏の人を救おう！
「余芸自身」被災者のための
チャリティ・コンサート

4月1日11:00西口公園にて。浅
草支店の社員が総出演。警官
に注意されるまでやります。

CD高価買取

P M 0:00 ~ 9:00 年中無休

ミッテンヴァルト
MITTENWALD

静謐、月の光。音楽。

BAR

大鴉 《おゝがらす》

バッハを聴きながらスコッチを、
モーツァルトに浸りながらワインを……

喧噪を離れて、クラシック音楽を
ゆっくりお楽しみいただけます。

大阪市住吉区帝塚山中3-7-7 ミューズコート帝塚山 TEL06-6672-8777



編集後記

本誌を発行以来、手に取って見ていただいた方は延べ5000人を越えます。一方、「レコード軽術」のホームページ <http://www3.ocv.ne.jp/~yanagawa> にアクセスした方はもっと多いと思われ、さらに伸びていくでしょう。コピー機でつつましく作りだしてから14年、それぞれのメディアに適した表現法も考えなくてはならないかと思うこの頃です。

ホームページではバックナンバーのハイライトを見ることができ、最新号の一つ前の号は全ページがPDFファイルでダウンロードできるようになっています。

今回は月評・器楽曲の原稿をかずみさんからいただきました。

レコード軽術 '01年4月号（通巻第27号）

2001.4.1 第1刷発行

2001.4.3 第2刷発行

編集発行人 柳川誠介

〒195-0054 町田市三輪町539-119

TEL&FAX (044) 989-8510

yanagawa@m2.ocv.ne.jp

PDF01426@nifty.ne.jp

印刷・製本 家内工業

hiroko-y@m2.ocv.ne.jp

